

# 美川自然クワラフ

H・18 2月号 **でーす**

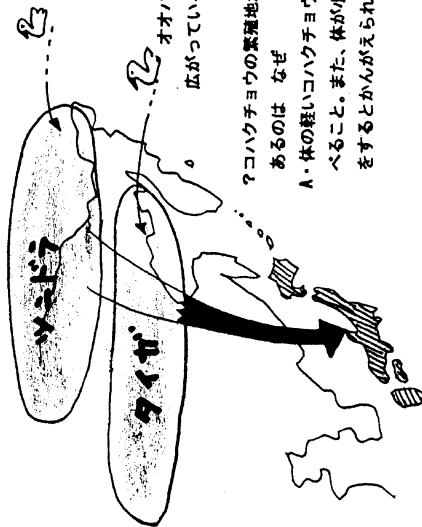
「美川自然クワラフ」は、美川町の清流・湧水のシンボルであるトミヨ（はりんこ）を保護し、美川町の身近な自然と手取川河口流域の生態系を守り、住み良く快適で明るい地域をつくるために行動することを目的とするボランティア団体です。

## この冬、美川にコハクチョウがやって来ました！

※コハクチョウも渡り鳥です。

渡り鳥のうち、春、夏に日本へ来て繁殖し、秋に南方へ帰る鳥を夏鳥といます。反対に、シベリア、カラフトなどで繁殖し、冬に日本へやって来る鳥を冬鳥とよんでいます。

※コハクチョウ、オオハクチョウも冬鳥のなかまです。



コハクチョウの繁殖地は、凍っていた地面が夏の間にだけ溼原になるツンドラ地帯

オオハクチョウの繁殖地は、針葉樹の森が広がっているタイガ地帯

？コハクチョウの繁殖地が、オオハクチョウの繁殖地より北にあるのはなぜ

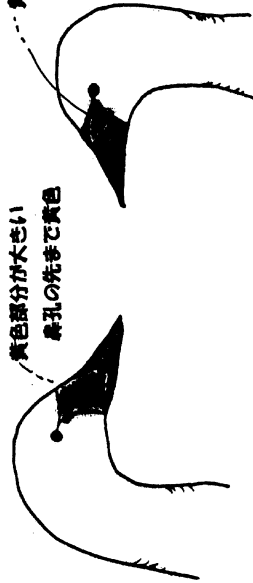
A・体の軽いコハクチョウが、オオハクチョウより長距離を飛べる。また、体が小さいため天敵の少ない場所で子育てをするとかんがえられる。

【オオハクチョウ】 全長 140 cm

【コハクチョウ】 全長 120 cm

黄色部分が大きい  
鼻孔の先まで黄色

黄色部分が半分より短い  
鼻孔の手前まで黄色  
オオハクチョウより  
やや小型



☆コハクチョウの渡来数はオオハクチョウよりすくなく、レッドテーターブックの希少種に指定されています。

ハクチョウの家族の絆は固く、渡って来るときは家族でやって来てを中一緒に行動します。  
真っ白い2羽が両親で、多少すすけた灰色をしているのがその夏に生まれた子ども達です。

朝10時ごろまでに水田などにエサを食べに行き、夕方までそこで過ごし、またねぐらに戻ってきます。



飛んでいるときは、

空気抵抗を少なくするため、

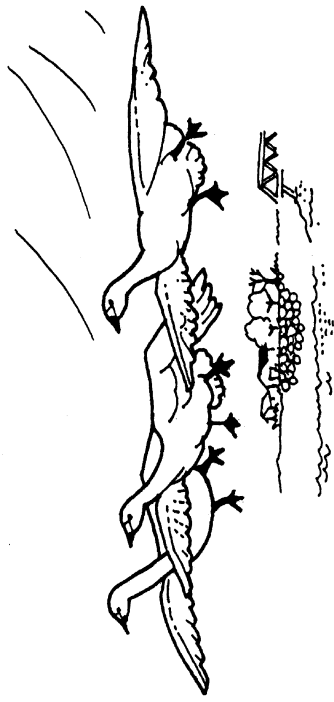
水掻きはただまわっている。



なぜV字に飛ぶとぶぶ？

それは…うしろとぶぶは上向きの気流に乗ってエネルギーの消耗が少なくて済むから、時々位置を交代しているんだ。実際は決まってるんじゃない。

体が重いから、水掻きで漕いで10メートルほど動走して飛び立つ。



着水するときには、脚を前につמידし、おおきき水掻きで水を押さえてつづけるようにしてブレーキをかける。